画像検出の論理の一部をハードウエアに置き換え大容量記憶装置を増設するなどの改良を実施している．

筆者は幸運にも COSMOS に触れ，KIDS との比較を行う機会を与えられた．COSMOS のグループもわれわれのシステムに強い関心をよせており，今回のことを契機として画像処理の分野での共同研究が実現しそうである．それにしても，VAX 11/780 を CPU とする膨大なかつ利用しやすいエジンバラの画像処理システムを目の当たりにして，筆者の羨望の念は当分消えそうにもない．

（前原英夫）

日本学術会議第86回総会報告

——改革要綱を可決，新執行部選出——

緊迫した雰囲気のもとで，第 86 回総会は，10 月 20，21，22 日の 3 日間にわたり開催された．第 12 期開始とともに発足した日本学術会議改革委員会は，精力的な活動を続けてきた．前総会で改革試案が採択されるや，直に会員，有権者，学会・協会，学識経験者などの討議に付され，それらをまとめた改革要綱案が，今総会に提出された．活発な審議に基づく若干の修正ののち，独立して職務を果たす国の機関としての現学術会議の基本的性格を保持し，その役割の一層の発展を目指す改革要綱案は圧倒的多数の賛成のもとに要望・声明などとともに可決された．

その直後，伏見会長，岡倉・塚田両副会長は，採択された要綱をもって政府との交渉に入るにあたって，これまでの経緯を拭い，執行部の陣容を一新して当たることが必要であるとの判断を示し，辞意を表明した．会員は事態の厳しさを改めて認識するとともにその辞任を諒承し，決意を新たにして直ちに新執行部を選出，久保亮五（第 4 部）会長，安藤良雄（第 3 部），八十島義之助（第 5 部）両副会長が決定された．

なお改革要綱案策定と並んで，学術会議が本来，日本の学術の進展のために常時果たすべき多くの仕事が各種委員会の活動として続けられており，それらは口頭もしくは文書報告として 173 件に及んで紹介された．

会長挨拶及び諸報告（第 1 日）

学術会議関係物故者に黙とうを捧げたのち，伏見会長は挨拶の中で，学術会議をめぐる情況にふれるとともに，改革の遂行，さらには日本の学術の振興のための一層の奮起を会員に要請した．諸報告にうつり，まず岡倉副会長から，会長の諮問組織として設置された「日本学術会議改革問題懇談会」（座長，永井道雄氏）の答申が報告され，この答申の内容は今回審議される改革要綱案に十分盛り込まれているとの判断が示された．続いて，1983 年度我が国で開催される国際会議，特定研究領域決定の経緯，科学技術振興のための機構試案，教科書検定問題への見解（学問・思想の自由委員会見解）表明などを含む各種委員会の報告紹介がなされた．

改革要綱案審議（第 2・3 日）

審議に先立って，伏見会長は提案採択後に予測される事態を説明し，総理府において進められている学術会議の改革検討に，どの程度本会議の理念が取り入れられるか懸念を述べた．そして重大な事態が起った場合には，臨時総会を開いて学術会議としての意志を固めねばならないこと，また今期総会において改革要綱策定への会員の結束した努力を再び要請した．

つづいて要綱案各項目毎の逐次審議に入り，

I．「改革の基本的前提」として，(1) 独特な性格の国の機関であること，(2) 政府から独立して職務を行う国の機関であること，(3) 日本の科学者の内外に対する代表機関であること，(4) 公選制を基盤とする重層構造制を備えていること，(5) 組織・運営上総合性を有していること，(6) 実質上，科学者の自主的組織として機能していることなど 6 点の内容

II．「改革の重点」として，職務の明確化，会員のあり方，会員選挙は直接選挙を原則とするが定数のおよそ 1/3 については，推薦制（コオプション制を加味する）を導入，任期 3 年通算 4 選禁止，部制・専門別制，内部諸機関の組織運営，研究連絡委員会，国際交流，予算・事務局，科学者との結びつきの強化，他の学術関係機関等との関係など 10 項目にわたる内容について審議採択した．

さらに要綱採択に付随して，要綱の基本的方向の尊重と細目についての連絡・協議を求めるための政府に対する要望「日本学術会議の改革について」，科学者，学会・協会をはじめ，政府，国会などの一層の理解と協力を求める声明「日本学術会議改革要綱の決定にさいして」，及び，今後外部との対応を含む諸措置及び実施方について，運営審議会に授権するための申し合せ「日本学術会議改革要綱の実現をめざす諸措置について」を採択した．

なお，現行法の枠内で直ちに実施可能な，科学者・研究者と一層の緊密化を図るための内規「学協会との連絡のための登録について」の一部改正を承認した．

新会長の決意表明

久保新会長は就任に当たって，「会員や全国の科学者の支援で，将来の日本のために，憂いのないよう，学術会議を改革するため，精一杯尽したい．」と述べ，会員，科学者の協力を要請した．

（日本学術会議広報委員会）